

みんなのスペース



田中はるき(7)



木村舞衣(9)



川上大和(5)



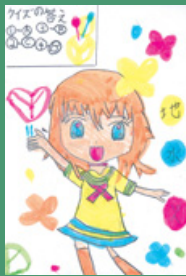
第6十刃(13)



湊俊樹(11)



小林夏希(10)



佐々木友花(8)



白野虹歩(8)



木村瑠衣(8)



マカちゃん(12)



なつめ(7)



佐々木莉奈(8)



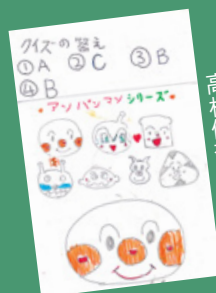
五十嵐龍一(7)



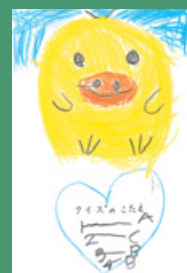
櫻井南実(6)



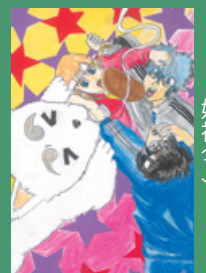
五十嵐桃香(8)



高村侑奈(?)



白野青空(5)



姫神(14)

ぼくのゆめ



ささき ぎんが くん
(船越保育園・5)

大きくなったら、自衛隊員になりたいです。カッコいい飛行機にみんなも乗せてあげたいな。

和尚さんの講話が聞いたことに感謝

9月4日、高齢者大学の豊間根教室と織笠教室の合同での視察研修旅行が行われ、陸前高田市の普門寺に行ってきました。途中、釜石市で車窓から眺める神々しく立つ観音像のお姿に、浄化された感じで朝からラッキーでした。

目的地の普門寺に着くと純な気持ちに。お寺にいくと身も心を洗われるような感じになります。境内を散策しながら拝し、御堂で和尚さんの「言霊の力」と題した講話を聞きました。「他人に悪心を持つと自分に返る。これが法則である。善の心を常に持ち、感謝、感動を忘れずに日々過ごしてください」とのことでした。

ちなみに、子どものころ、山で大声を出すと木霊が自分に返ってくるという体験が、今でも忘れずに残っています。昨今、なかなか聞くことのない心の健康についての貴重なお話を聞いたのも、高齢者大学に入っているたまものだと思います。関係者の皆さんありがとうございました。

菊地サカエ (織笠・74)

やまだ文芸広場

潮鳴りの音をかぞえし海恋し
世の中に安らぎもたらすハスの花
泥中にて悟りの花咲かす

広報クイズ

268

三つの中から正しいものを選んで、応募してね。

- 1 本年11月に本町の中継局が開局するのは〇〇デジタル放送？
 ④水上 ③地上 ②地元
- 2 9月3日に町内39の飲食店を会場に開かれたのは「三陸山田〇〇酒大会」？
 ④はしご ③きき ②向かい
- 3 本年度の町民芸術祭が開幕するのは10月〇日？
 ④15日 ③20日 ②25日
- 4 今号の「1歳になりました」に登場している赤ちゃん8人のうち、女の子は何人？
 ④2人 ③3人 ②4人

【応募方法】 はがきに①クイズの答え②住所③氏名④年齢を明記の上、ご応募ください。全問正解者の中から抽選で10人に500円の図書カードをプレゼント。応募は一人1通です。

【応募先】 〒028-1392(住所記載不要) 山田町役場広報クイズ係
 【締め切り】 10月21日(当日消印有効)

☆前回の正解は①-A、②-C、③-B、④-Bでした。応募者数は35人で全員が正解。抽選の結果次の10人が当せんしました。

八幡町=湊優紀美(14) 山田=佐々木耀(14) 船越=清川優斗(10)、芳賀優香(9) 田の浜=五十嵐龍一(7) 大浦=阿部淑郁(10) 織笠=高村桃佳(11) 大沢=福土梅子(62) 荒川=芳賀勉(?) 宮城県仙台市=沼崎梨絵(?) <敬称略>

◆投稿規程 ▷住所、氏名、年齢、電話番号を明記。ペンネーム、匿名での掲載を希望する方はその旨をさらに付け加えてください▷住所、氏名が記入されていないものは掲載しません▷営利・政治的活動を目的としたものや、特定の個人・団体をひぼう・中傷するものは掲載できません▷400字を超えた投書は400字程度まで添削いたします。

◆あて先 〒028-1392(住所不要) 山田町役場総務課情報管理担当へどうぞ。

ワカメ養殖組合誕生までの概要(1)

昭和35年のチリ地震津波の影響で、それまでのワカメについての考え方が大きく変わった。当時、大浦の天然ワカメは、品質、数量とも日本一の名声を博していたのだが、隣の宮城県では養殖でのワカメ生産が盛んだというのを、大方の人は聞き流していた。

ワカメというのは、芽株^{めかぶ}から種が出て成長してワカメとなる。漁師たちの間ではこのことが共通認識であったが、わたしをはじめとして誰もワカメの種を見た人はいなかった。芽株から種が採られる。ここまでは分かっていたのだが、そこから先は全く分からなかった。

わたしなりにもいろいろと研究を試みたのだが、はっきりと発芽を確認できたのは、カキ縄に芽株をそのままのもの、半分のもの、小さく切ったものを等間隔にはさみ筏に垂らす方法だった。水深により成長の違いはあったが、これにより芽株からワカメがなるとの確信を得た。だが、この方法では大量の芽株が必要となるためにいろいろと疑義も出たのであった。(つづく)

山崎卓三(大浦・?)



影狼(10)



今後の岩手県球児の活躍に期待

今年の夏は、冷夏ほどではなかったが梅雨もあけずに初秋となった気がした。

そんな中で暑さを実感させてくれたのが、夏の全国高校野球選手権大会だった。惜しくも準決勝で中京大中京高校に屈した花巻東高校であったが、それでも終盤まで笑顔を絶やさなかった選手たちの心の余裕に感動した。その背景にあるのは指導のたまものであると感じ、佐々木監督には敬服した。また、日米親善高校野球大会の第1戦、花巻東高校の猿川君の先制打で米国選抜に8対5で競り勝ったのを新聞で見て、今後の岩手県球児の活躍に期待が持てました。

齋藤忠雄(船越・83)



フランドールスカーレット(14)



阿部淑郁(10)



Miho(?)

内館洋一(飯岡・66)

いつの間に虫の音変わり秋風がそよ吹く朝の長月になり

大町テイ子(大沢・?)

記録会カエルと魚の競い合う

女孫の努力に笑顔あふるる

大川ヒメ子(大沢・65)

渡り鳥仰ぎ仰ぎて古里を

語り始めぬハンセン病者

菊地孝進(船越・87)

善幸さん泣いておりますゼロになり

佐藤兼男(荒川・83)

秋

秋になりました。「秋」ることなく書くきっかけは、NHKのハート展に去年勧められたことです。これがまたすっかりはまって、ノートとペンと周りの協力があるから「秋」ないのです。

「秋」らかにほほお金がかかりません。作業が終わっても、夜の9時過ぎまで「秋」ずに書きます。

生涯「秋」ずに続けられそうです。

佐藤啓子(船越・31)